

孤独、あるいはマルキドサドに学ぶ幸せな人生の過ごし方

作 松島寛和

弟 登場人物

弟

1

大学2年の春ごろ、兄から電話がありました。

「……は？　なんて？　え？　え？　うそ。いつ。昨日？

なんですぐに電話くれなかったん？

忙しかった？

いやいやいや、とうちゃんが死にかけてるのにその理由はないわ。

すぐに電話かけるべきでしょそこは。

……いや。まだ死んでないとしても……。

つつか、まだってなんだよ縁起でもねえな。

……だからって後回しにしたいわけじゃないから。

……えー。どんな事故だったの？

え？　ぐちゃぐちゃ？　……ごめん、やっぱ聞けないわその話。

うん、うん。んでかあさんは？

え！　家出？

いつ？　3ヶ月前？

なんですぐに電話くれなかったん。

……忙しかった。

よっぽどだよ。3ヶ月ずっと忙しいってのは。

……はー。なんも知らなかった。どうりで。

弟

あ、うん、深夜バスに乗れば明日の朝には着くから。

旅費？ 旅費かー。兄さん貸してよ。……ないって、ないことないだろ。なんやかやで2万くらいかな。

いや、厳密に言えば2万はいらないよ。

ちよろまかすつもりなんてねえよ。

違うって。いま3千円しかないんだって。嘘じゃないよ。

じゃ、1万でいい、あとはなんとかするから……

(電話切れる)……切りやがったよ。

弟、深くため息

電話をする。

あ？ タナカ？ おれおれマツダだけど。

変なこと聞いちやうけどさあ、お前今日暇？

……そっかー。あ、いやいや、

もしかしたらバイト変わってもらえるかなって。

え？ ああ、うん。実はさあ、実家に帰らなきゃなんなくなっさ。

……それがさあ、うちのとうちゃんが事故して。車で。

よくわかんねえけど、なんか壁に突っ込んだんだって。

それが大丈夫じゃないんだよ。相当な勢いだったらしくてさ。

ちよつとやばいかもしれないだよね。

……そっか、そうだよな。いやいや、急な話だからいいんだよ。

弟

え？ あー。ハシモトさんかー。あの人頼みづらいわあ。
ま、駄目元で頼んでみるか。あの人住んでんのってそんな遠くないよね。
行ってみる、うん……そんでき、ほんと申し訳ないんだけど、
金貸してくれる？

旅費がさ。ちよつと足んなくて。

……いや、全額じゃなくて、ほんのちよつとでいいんだよ。

マジで！ いや、いいよ五千円で全然、嬉しいわマジで。

んじゃ、先にハシモトさんち行って、そっち行くわ。

(歩きながら) はー、こっちから頼む前から切り出してくれるなんて
マジやさしいなタナカ。

ハシモトの家。

(チャイムを鳴らしてちよつと待つ)

……ハシモトさーん。

(もう一度チャイムを鳴らす)

……ハシモトさーん。

(チャイムを連打しながら) ハシモトさーん！

(ドアが開く) あ、どうもすみません。……もしかして、寝てました？

あー、起こしてすみません。

いえ、あの、実はバイト変わってもらえないかなーって。

え？ あ、……そうですか。

弟

あの、どうしてもダメですか？

(ドアを閉められようとして) ちょっと待ってください。

あの理由聞いてもらえます？

その、父が事故にあっちゃって。それで。

……それで？

まあ、それだけなんですけど……

(ドアを閉められようとして) もうちょっと待って。

死にかけなんです、父が。虫の息で。

……いや、父が。

……用事があるって。ハシモトさん寝てたじゃないですか今。

気分じゃないって、気分盛り上げてくださいよ。

え？ 5千円？ 金とるんすか……。いや、金はないっすね……。

あ(ドアを閉められる)……。ダメだこりゃ。

そこに電話。

もしもし。あ、今？

ハシモトさんどこ。あ、うんうん、ダメだわ全く。助ける気ゼロ。

ああ、説明したんだよ、親父が虫の息だって。

でも全然変わってくれる気配なかったわ。

最悪だよー。血も涙もねえわー。

え。マジで。タナカバイト出れんの？

うわ、ありがと！ 恩にきるわー。
5千円といい、バイトといい、もうどこまで優しいんだタナカは！

五千円札を手にして

弟

あー。持つべきものは友だなあ。
……でも手持ちの3千円と合わせても8千円か。

電話をする

弟

サエコ？ あのさあ……
うん、今日バイトなんだけど、事情があつてさ。
タナカに代わってもらった。

あー。うんうん、ちゃんとお礼言った。大丈夫だって。いや。
……いや、タナカのことはいいんだよ。

その、ちよつとお願いがあるんだけど、5千円貸してくんない？
うん、実は実家に帰らなくちゃなんなくなつてさ。足んなくて。

……とうちゃんが事故つちやつて。
……いや、あにきは帰つてこいとは言つてなかつたけど。

まあね、あの人そういう人だからね。

うん、なんかさあ、それで、母親が家出してらしくつて。
いや、別、別、父の事故と母の家出は全然別の話。

なんか母がいなくなってるさあ、
すでに3ヶ月くらい経ってるらしいんだよね。
……知らなかったわ。
そう。うん。だよ、俺もそう思ってたさ。
……マジで？　ありがと。マジでありがてえ。

もう一枚の5千円札。

弟
これで1万3千円。深夜バスならチケットが買える。

バスターミナル。

弟
(案内図を見ながら) えっと、チケットはあつちか。

浮浪者がベンチに座っている。

弟
あー。なんかホームがレスしてる感じの

ジプシーおじさんがこっち見てるなあ。

やだなーやだなーなんか怖えなー。

あ。(浮浪者が近づいてくる)

(目線をそらす声がかけられて) え？

あ、ぼくですか？

何か。

……はあ、はあ。それで？

え？ ああ。……いや、

ぼくも他人に恵んであげるほど持ち合わせてないんですけど。

……えー。

……うー。

困りましたね。あはは。

……どうしよう。千円までならなんとかかなるかなあ。

五百円にまけてもらおうか。

おじさん、お釣りありますか？ ないっすよね。

おじさんって、どのくらいご飯食べてないの？

……そうですか。……そりやお腹空いてますよね。

……もう、そんな目で見ないでくださいよ。

（観念）いいですよ。差し上げます。千円。

（お札を取り出して）これで美味しいものを食べてください。

（財布を掴まれる）え？ ダメですよこっちのお金は。

ぼくもいろいろ事情があつて、これは差し上げられなくて。

ちよつと、え。あ、あ、あ。

（浮浪者とお金を引つ張り合う）

（2、3発殴られてお札から手を離してしまう）あー！

お金は、浮浪者のおじさんに、

そっくりそのまま取られてしまいましたー。

弟

場面大きく変わってお葬式。
葬送行進曲が流れている。

(歩いてきて) あ、喪主側はこっちだつて。

(椅子に座る) おれあつちに座ってたわ。

だつてわかんないもん、身内の葬式なんて初めてだし。
兄さんだつてその辺うろろしてたろ。

一緒だよ。

一緒。

……これってお客さん集まった方なのかね。

あ、お客さんって言わないか。

なんていうの？ 参列者か。

でも葬式って、こういう曲って流すもんなの？

えー？ 流すか？

だつてゲームオーバーの曲じゃんこれ。

まんますぎない？ そういうもん？

まあ、ある意味ゲームオーバーだけだね。

(参列者が挨拶に来る)

あ、どうもこの度は……。

いえ。いえ。はい。はい。

え？ ああ、元気になりました。はい。

あ、いやー、帰ってはこないですね。
はい、多分、はい。

え？ 借金？

……いやー、それ知らなかったっすね。初耳です。

はー、はー、へー。

あ、どうも。(頭を下げる)

……おい。オヤジ借金してたのかよ。

おい。答えるよ。

……えー。なんでそんな大事なことを黙ってたんだよ。

おれ？ なにいつてんの？ 学生が借金返せるわけないだろ。

無理無理。無理だよそんなの。

あの、あれがあるでしょ。相続放棄。

どうせマイナスなら受け取りませんってやつ。

……え！ そしたら仕送りゼロになるの！

学費もストップ！？

電車の車内

弟

学費、家賃、光熱費。
食費と、携帯代か…。

電車降りる

弟

(財布を開けて) ああ…腹減ったな。

(電話をかける) サエコ? ああ、今帰ってきた。

あのさ、今からサエコんち行ってもいい?

サエコの家。

ただいまー。あー! やつと帰ってきたー。

ああ、うん、兄貴は元気だったよ。

え? ……来なかった。うん、待ってたんだけどさ。

潔いっていうのかね、こういうの。

すぐカッカする人だったけどさあ、母さん。

なんかねえ、長年連れ添った旦那の葬式にも来ないなんてねえ。

ま、おれも死に目には会えなかったけどね。

……。

あのさー、サエコさー、しばらくここ泊まっていい?

え。マジで?

うわ、ありがと。助かるわー。

あ、うん、兄貴は別にあれなんだけどさ。

親父に借金があつたらしくって。

よくわかんねえよ、わかんねえけど借金してたんだよ。

そんでさ、最悪なことに親父の生命保険さあ

母さんが家出するとき解約して、それ持って逃げてたんだわ。もう、なにもかも、だよ。

親父は死んじゃうし、母さんはいなくなっちゃうし

金はねえし、兄貴はよくわかんねえし……。

いやあ、それが聞いても誰も詳しいことわかってなくてさ、

なんか男でもできたんじゃないって。

ああ、うん……それで、仕送り100パーストップだって兄貴が。

学費、振込がまだでさあ。

学費が月に6万だろ……

生活費、光熱費もろもろで……16万かあ。

んで、今のバイトが時給680円で……

ん？ ごはん？ ああ、腹減ってる減ってる。

そうだなー、親子丼？ できる？

ああ、もう最高、それがいいわ。

うーんと（計算をして）これ、

月に230時間は働かないと間に合わねえな。

月に20日勤務で……

1日11時間勤務か。

いけるか？

無理だろ。

そもそもコンビニのバイトじゃこんだけ稼ぐの無理だろ。

え？

弟

いやいや、サエコから借りても、返すあてがないもん。
心配すんなよ、やめねえよ、学校。
ちゃんと仕事したらなんとかさ。
大丈夫、なんとかする。なんとか。

弟、「なんとかなんとか」とつぶやきながら面接会場へ

はい、御社のビジネスにおきまして
なんとか自分の長所を活かせるのではないかと。
なんとか。

はい、長所は……

サークルで培った協調性と積極的な行動です。

え？ 積極的な行動……です。

はい……積極的な行動ですけど……積極的な。

ま、意味合いとしては、なんでも率先してやるというような……

はい、ゼミでも。はい、はい。

ええ、ええ、そうですね。

ああ、え？ もう終わりですか。

はい、ありがとうございました。

サエコの家

弟

あーつかれたー。

あー、厳しいー。サエコ、なかなか厳しいよー。

え？ チキン南蛮？ 食べるー。

もうさあ、面接よくわかんねえわ。

喋ってるうちに御社だか弊社だかわかんなくなるんだよ。

あれ、みんなマジで言ってるのかね、御社って。

御社。御社。

(メールが来る) あ。

ちよつと……。落ちたよ。

え？ 今日行ってきたとこ。

早すぎね？ 今の今だよ面接行ったの。

あー、もうこうなると履歴書が惜しいわー

履歴書ー書くの超めんどくせえしー

返してくんねえかなーあれ。

写真だよ、あれ高いんだよ。あれが最後の1枚だったんだよね。

……え？ あ、そっか。

そうだね、スマホか。スマホで撮って、学校で印刷したらいいのか。

サエコあったまいいな。

んじゃ、撮っちゃお撮っちゃお。

写真撮る。

弟

見せて見せて。

……ダメだこれー。後ろにカーテン写ってるもん。

「あ、ニトリだな」って思われちゃうわ。

もういつそのこと背景ニトリにしちゃうか全部。カーテン引いちゃって。

ダメか。

じゃ、背景が写り込まないとこ探そうよ。

(動きながら) この辺だったらいけるんじゃない？

ダメ？

こっちは？

(動きながら) どう？ どう？ 行けそう？

この部屋死角なくね？ どこ行ってもダメじゃね？

やっぱ金かけて撮るしかねえかー。

金がないから仕事すんのにさ、その仕事探すのに金がかかんだもん。

就活、マジ金かかるしよ、どう思う？

すげー矛盾してるよー。

つかよ、履歴書いちいち書くのがめんどくせえ。あー。

……学校やめちゃうか。

だってよ、そんな無理だべ。家賃、光熱費、携帯代、

その他諸々稼ぎながら学費まで出すのなんてさ。

そんな顔すんなよ。

しようがないじゃん、1日10時間も働いてたらいつ学校行くんだよ。

奨学金か……。でもそれって申請してすぐにもらえるものなの？

やっぱり仕事は探さないといけないよなあ。
ああ、どうしよう。

ぶつぶつ呟きながら面接会場へ。

弟

学費、家賃、光熱費…。
食費に…。携帯代かあ…。
…これです。10社目だ。

面接会場。

弟

はい、御社の手がける新電力ビジネスにおきまして
なんとか自分の長所を活かせるのではないかと。
なんとか。

はい、長所はサークルで培った協調性と

はい、積極的な行動です。

ええ、ゼミで、あの、え？

明日からですか？

ああ、あの、学校が4時までなんで、ええ、はい

あ、朝から大丈夫です。いえ

大丈夫です、朝から。はい、やります。

サエコの家。

弟

やったやった、サエコ、決まった。

時給千円、しかも歩合でそれ以上もらえたりするんだって。

10時間働かなくて済むー。

やったぜー。

やったー。やったぜベイビー。

スシロー行こう。こういう日はスシローがいいよ。

おれ、あれ食いたい。かぼちやあげたやつ。

ぱーっとお祝いだ。就職祝い。

ショッピングモールの中央通路。

弟

あ、あの。ニコニコ電力です。(スルーされる)

あの、ニコニコ電力。(スルー)

あのニコニコ…。

ニコニコ…。あああ。…今日も終わった。

終業の時間。

休憩室で。

先輩のナカオカさんがやってくる。

弟

おつかれさんです。

え？ コーヒーごちつてくれるんすか？ あざっす。

なかなかうまくいきませんねえ。

おれっすか？ 入って一週間です。

そうなんすよ、今日もゼロでした。

まだ入ってから成約ゼロっすね。

ナカオカさんってばんばん契約決めるじゃないですか。

なんかコツつてあるんすか？

遠慮？　してますかねえ。

でもやっぱ初対面の人にゴリゴリ押ししていくのは

気がひけるかもわかんないっすね。

今？　時給千円です。

え？　下がるの時給、このままだと？

えー……。七百円だったらコンビニと変わんないじゃないですか。

やる気はありますよ。いきていけないっすもん。

え？　オオイシさんって、ティッシュ配ってるあのおじさんですか？

えー。いくつくらいかなあ。30くらいかなあ。

まじっすか。40超えてんすかあの人。

喋った感じ幼いからもっと若いと思ってた。

え。七百円でやってんすか、あの人。えー。

よくそんな金額でやってられんなあ。

ああなっちゃったらやばいっすね。

マジでやらないとやばいことになりますね……。

明日っすか？　仕事入ってます。

郵便局？　ナカオカさん郵便局でこの仕事やるんすか。

そんなところで成約出ます？

入れ食い？　うそー。

……えー、だったら。……おれも連れて行ってもらおうかな。

いいっすか？　頼んでもらえます？

あざっす。おれ明日マジでがんばります。

郵便局。

弟

ナカオカさん。郵便局は入れ食いだつて言っていましたけど。じじいとばあばっかりじゃないですか、ここ。

ほんとにここで成約なんて出るんすか？

ははあ、今日が年金の支払日。

そんな年寄りを勧誘するんすか。

ナカオカさん、どんだけなんすか。

え、遠慮？

これ遠慮っすか？

確かに、遠慮はダメっすね。

そつすよね。お年寄りにとつても

電気代が安くなるのはメリットありますもんね。

そっかー…。こういうのがダメなのか…。

あ。ナカオカさんすげーなあ。早速一人キャッチしてる。

あの人の頭つてどうなってるのかね。

(老人に話しかけられる) え？ ああ、はい。

今日ここでキャンペーンやってて。

話を聞いてもらうだけでプレゼントしてるんです。

洗剤です。食器洗うやつ。

そうなんです。それだけでプレゼントなんです。

どうぞこれ、洗剤。

んで、んで、んで、あの、一つだけ伺ってるんですけど。

お家の電気ってどこ使ってます？

電気代。支払先。

あー、そうですね。ほとんどの方がそうだと思います。

どうですか？ 電気会社を変えてみませんか？

いやいや、大丈夫ですよ。電気の中身は変わらないんで。

品質は……。はい……。もう全く変わらず……。

しかもキャッシュバックがあるんですよ。

どうですかーお願いしますーお願いしますー。

え、あ、ほんとですか。ありがとうございます。

(ナカオカさんに) ナカオカさん、ナカオカさん、決まりました。

一件、ご成約です。5分も経ってないのに向こうから決めてくれました。

ナカオカさん、おれ、やっていけそうです。

なんか自信出てきました。

サエコの家。

弟

ただいまー。

サエコ、初給料が出たよ。

ほら、通帳、見て。15万。

あー、がんばった甲斐があったー。

ナカオカさんのおかげだよー。

マジすげえもんあの人、血も涙もないっていうか。

ゴリゴリいくし。

ほんと、遠慮したり情けかけたりしちやダメってことなんだなー。

え？ いやいや、一番はサエコのおかげだよ。

毎日ご飯作ってくれてさ。

サエコがしっかりバックアップしてくれるから

俺も仕事に打ち込めるんだよ。

そんでさ、おれ、生活費っていうか

家賃とか光熱費とか半分出そうと思うんだよね。

いやいや、大丈夫だって。なんとかなるよ。

この仕事稼げそうだしさあ。うん。

ねえ。

(恐る恐る) じゃ、おれ、家引きはらっちゃおつか。

ねえ！ それがいいよねえ！

だって無駄だもん俺んち。それがいいよね。

あー、もう、親父死んだ時はどうなるかと思っただけ。

なんやかんやでうまくいってよかつたー。

じゃあさ、初任給祝いと引越し祝いを兼ねて、寿司いくか。

スシロー。おれ、今日こそはあの色違いの皿行っちゃうから。

え？ ちらし寿司作ったの？ マジで？

弟

えええ。手作り？ すし太郎じゃないんだ。
はあああ、頑張った甲斐があったー
おれ、これからバリバリ働くわ。

ショッピングモールの中央通路。

(広告バナーを見ている人に) 今日はお買い物ですか？
そうですか。夕飯の。

え？ (バナーを指差し) これ？

そうです。新電力。あ、聞いたことはある。

ご説明しましょうか？

どうぞどうぞ (座らせる)

これ、パンフレットですね。

今、自分で電力会社を選べるようになりまして。

ちなみにお客様はどちらの電力会社を？

ですよー。

ニコニコ電力は従来の電力会社と全く同じ電気を使っているので

はい、そうなんです、だから結局のところ支払先が変わるだけなんです。

ほぼデメリットはございません。

ちなみに、お客様は毎月どのくらい電気代をお支払いですか？

え。あー……結構お支払いですね。

だったら、ニコニコ電力に変えていただきますと

年間5000円はキャッシュバックできますね。

いかがですか？ せっかくなので今日切り替えて行きませんか？

え？ ま、確かに。今日はそんなつもりじゃなかったかもしれない。

実際、ここで契約される方のほとんどがそうなんですよ。

でもこんな機会でもなければ

電力会社を変えるチャンスってないんじゃないですか？

ですよー。

(お客さん悩んでいる)

あ、はい。デメリットはございません。支払先が変わるだけ。

(お客さん悩んでいる)

もし、もしですよ、今日契約していただけたら、

3000円相当のギフトカタログがお渡しできるんですよ。

どうですか？ 悩んでるんだったら、もう決めちゃって、

今日ギフトカタログ持って帰りませんか？

(お客さん悩んでいる)

キャッシュバックは郵便為替ですね。ほぼ現金です。

(お客さん悩んでいる)

ご契約ですか。ありがとうございます。

それではこちらが契約書になりますんで、

こことこと、ここに必要事項を書いてください。

(お客さん書き込んでいる)

あー。

実は、もう一つおススメさせていただきたいものがありました。

あ、はい。

あの、ニコニコ電力のグループ企業で、

和歌山山麓のおいしい水つてのやっつてまして。

あ、はい、聞くだけ、聞くだけで結構です。

その書類書きながら聞き流してもらっていいんで。

あの、これ、ご自宅にお水をお届けするサービスなんです。

何がいかというと、日本人にぴったりの軟水で。

あ、そうですそうそう。

赤ちゃんは軟水じゃないとダメ。よくご存知で。

はー。赤ちゃんがいらつしやるんだ。

だったらこれ、お湯がすぐ出るんで、ミルク作るのに便利ですよー。

そして安いです。

その、今お買い上げになってるペットボトルで換算すると

1本だいたい70円。

それです。それぞれ。その今日お買い上げになってる2リットルの。

いや、本当ですよ。

ほんとにこのお値段。安いでしょ。これ、いかがですか？

（お客さんが悩んでいる）

はい、毎月届きます。

ご自宅に。

……まあ、そうですね。ご家族に相談しないとね。

…ちなみに、生活費って奥様が管理されてるんですか？
ほら、夕飯のお買い物とか。

ああ、奥様が。

だったら、このウォーターサーバーにして、

お水代少し節約してみませんか？

だってこれ、そのペットボトルを買うより確実に安いですよ。

しかも、これだったらご自宅までお届けさせていただけなんです。

そんな重いものを担いで帰らなくてよくなりますよ。

はい。

(お客さんが悩んでいる)

もし今日決めてもらえたら

こちらの日用品詰め合わせセットをプレゼントしています。

あ、ご契約ですか。ありがとうございます。

それではこちらが契約書になりますんで、

こことことと、ここに必要事項を書いてください。

(お客さん書き込んでいる)

あ、お支払い先ですか。

ええ、クレジットカードいけますよ。

どちらのカード使ってます？

(見て) ああ…。

どうですか？ これ、ポイントたまります？

ですよねー。

もし、うちのカードにしてもらえたら、これの倍ポイントたまりますよ。それでウチのポイントはほぼ現金なので、いろいろ使えますよ。どうしましょう。

そうしますか。

ありがとうございますー。

(書類を出して) それではこれがカードの申込書になりますので、こことこと、ここに必要事項を記入してください。えーっと、では、免許証をお預かりして…

免許証のコピーを取っている。

これから夕飯の支度ですか？

あー、そうなんです。手作りにこだわって。

ご主人は幸せですね、毎日美味しいご飯が食べられて。

ですよ。献立考えるのも大変だ。

ま。レパートリーって限られてきますからね。

ぼくはめんどくさくってね、よくコンビニで済ませちゃうんですよ。だって、しんどくないですか？ 毎日作るの。

(戻って来て) はい、免許証お返ししますー。

ちなみに、お母さん支援サービスっていうのがあるんですけど。

(パンフを取り出して) 週二回から選べるんですけどね。夕飯の材料をご自宅に届けるサービスなんですよ。

これ、何がいいって、

このカタログの中からお献立が選べるってことなんですよね。考える手間も、お買い物の手間も省けちゃう。

金額もすごくお安くて。いかがですか？

（お客さん考えている）

今、最初の二週間は半額サービスやってます。

（お客さんが悩んでいる）

ご契約ですか。ありがとうございます。

それではこちらが契約書になりますんで、

こことことと、ここに必要事項を書いてください。

（お客さん書き込んでいる）

お布団どうですか？ 掛け布団とマットレス。

人って1日の4分の1をお布団で過ごすじゃないですか。

ということは、1年のうち3ヶ月はお布団にいるってことですよ。

だったらそこを少し贅沢にしても悪くないと思うんですよ。

それに、毎日お仕事で疲れて帰ってくるご主人には

気持ちよく眠ってほしくないですか？

ご主人をふかふかのお布団で労ってあげましょうよ。

お値段は、掛け布団とマットレスがペアでそれぞれ15万。

高いですか？ まあそうですよね。

でも今日はキャンペーンやってますんで、

成約特典としてなんと10万円のお値引きをいたします。

弟

毎月の割賦にすると月々五千円のお支払いでオツケーです。
1日に換算すると百七十円弱ですよ。
どうなさいます？
ご成約ありがとうございますー。

終業時間。

休憩室で。

あ、オオイシさん。おつかれっす。

缶コーヒー飲みます？

(自販機で買う)

どうぞ。(渡す) いやー、今日の客はちよろかったー。

フルコンボですよフルコンボ。

ちよつと、マジで、おれ、いま、来てるんすかね。

もしかして入っちゃいました？

ゾーン。

え？ おれっすか？ 学生です。

つつつても最近全然学校行ってないですけどね。

ああ、いいんすいいんす。

もう辞めるんで。学校。

いいんすよ、行っても意味ないから。

ナカオカさんも言っちゃいましたけどね

結局俺たち文系の仕事って、ものを売るくらいしかないじゃないですか。理系が作って、文系が売る。

世の中そんな風にできてるんすよ。

だったら卒業したところで、今とやることあんま変わらないんすよね。この仕事、実入りもいいし。

もうちよつと本気でやってみようかなって。

え？ オオイシさん辞めるんすか？

次、何の仕事やるんすか。

クリアファイルの営業……。

クリアファイルって、なんすか。

え？ あの書類とか入れるやつ？

ああ、知ってます知ってます。

だったら間違ってたつす。俺が思ったのと。

つつか、クリアファイルに営業とかあるんすか？

へえ、法人相手に、売って回るんすか。

それ、売れます？

まあ、まあ、確かにやってみないとわかんないけど。

でも……。

大丈夫つすか？ オオイシさん。

それ、もしかしたらこの仕事よりハードじゃないかなあ。

まだテイッシュ配ってた方が楽かもわかんないつすよ。

ああ、お子さんが……。何人いらつしやるんすか？

弟

え。養育費払ってるんすか。オオイシさん。
みんないろいろありますねえ。
ああ、世の中って厳しいっすね。

サエコの家。

そうなんだよ、その人、全然向いてないんだわこの仕事。
あの入れ食い郵便局でも全然契約出せなかったらしいし。
どうやって生きて行くのかな、オオイシさん。
つかよう、クリアファイルに営業があるのって知ってた？
知らねえよなあ。聞いたことねえよ。
そんなん、飛び込みの営業で売れるのかな。
買う？ 突然来た営業からクリアファイル。
どうでもいいか。
あ、今日の麻婆丼うまかったよ。
あれってクックドゥ？
手作り？ 手作りで麻婆豆腐ってどうやんの？
お味噌で？ へー。
サエコってさ、どっかで料理習ったりしてたわけ？
いやいや、独学じゃそんなうまくならないでしょ。
お店とか出しちゃう？
いやいや、マジで。就活やるより起業した方が楽じゃん。

内定、おれが出しちゃうよ。いやいや、マジで寝るか。

あー、でも言っとくけど、セックスはしないよ。もう飽きちゃったよ。サエコとセックスするの。マジでマジで。笑ってるけどマジなんだってば。毎回一緒じゃん？ やることが。つまんなくてさ。だって、ガチでやるつもりないでしょ？
え？ セックス。ガチで。
だよー。
なーんか毎日仕事で疲れちゃっててさ、そんな気分になれないんだよね。
じゃ、電気消すよ。
おやすみー。

朝。

弟

おはよー。
行ってきまーす。

ショッピングモールの中央通路。

弟

ニコニコ電力いかがっすかー。

キャンペーンやってますー。

ニコニコ電力いかがですかー。

あ、おばあさん、今どちらの電力会社使ってます？

うわー、ガン無視……。

(ナカオカさんから) え？ あ、封筒、落としていきましたね、今の人。

(拾って中身を見る) 二万円入ってる……。

なんすか、つい見ちゃったんすよ。つい。

え？ ナカオカさん、すごいこと言いますね。

ダメっすよ、いくらなんでもネコババはないっす。

ま、確かに落としてることに気づいてないけどあの人。

取りに来たらどうすんすか。

ばっくれらんないっすよ。無理ですって。

……。

いやー、やっぱ無理っしょ。それは。

ナカオカさんマジシャレきついつすよ。それはないっす。

おれ、届けて来ます。

あのー！ すいませーん！

(走ってばあさんのところへ) これ

さっき落としたよ。どうぞ。

あ、はい。僕が拾いました。どうぞ。

え？ いや、これ最初から2万しか入ってませんでしたよ。

あ、確かに、すいません、中を開けて見ました。

弟

いやいやいや、4万じゃなかったですよ、見た時2万しか入ってませんでした。

ネコババなんかしてませんよ。中を見ただけですって。

なんで財布見せなきゃなんないんですか。嫌ですよ。

誤魔化すつもりなんてないですよ。取ってないんだもん。

ちよつと、あんま大声出さないでくださいよ。

みんな見てるじゃないですか。

えー(しぶしぶ財布を出す)

いやだから、このお金はぼくのお金なんですって。

証明のしようがないですよ、この二万が誰の二万なのか。

違いますって、ぼくはただこれを届けに来ただけなんですよ！

ショッピングモール事務所。

あのおばあさんまだ騒いでるんですか？

いやいや、警察なんて呼ばないでくださいよ。

おれ何もやってないんだもん。本当です。

……出入り禁止？

勘弁してくださいよ、なんで落とし物を届けて出入り禁止になるんですか。

仕事できなくなっちゃうじゃないですか。それじゃ。

ナカオカさんがやってくる。

弟

あ、ナカオカさん。

ナカオカさんも言ってくださいよ。

おれ何もやってないって。

え？

クビっすか？

おれが？

なんで？

会社が二万出して手打ちにするから？

え、でもそれっておれに責任あるんすか？

いやいやいや。

それじゃ納得できないっすよ。

そんなの理不尽じゃないですか。

飲み屋で。

タナカがいる。

弟

おねえちゃん！ 焼酎のロック！ ジョッキで！

おい、タナカ、お前も飲めよ。

おねえちゃん、こいつにも焼酎のロックジョッキで。

あー、きたきた。

かんぱーい。

今日はさ、おれのおごり！

って言いたいところだけどさ、割り勘ね。

タナカ。今日は飲もうじゃないの。

持つべきものは友達だよなあ。

おれさ、うちの親父がやばかった時さ、

お前がバイト変わってくれてさ

しかも金まで貸してくれて

あの時は本当に嬉しかったよ。

ありがとなあ。持つべきものは友達だよ。

苦しい時は助けてくれる。

でもさ、他人が苦しんでる時に余計な情けは無用だよ。

少なくとも、浮浪者に千円渡したり

落し物を届けるなんてのは言語道断だよ。

わかる？

なあ。もう就活って始まってんの？

来年か。

仕事って大変だよなあ。

金を稼ぐってのはなあ、大変なんだよ。

なあ、わかるか？ 学生。

まあ飲めよ。(ジヨッキをあおる)

あ(電話)サエコだ。

あー、もしもし。あ、うん、いま？

うん、実はさあ、今日タナカと一緒に。

うん、飯食って帰るから。

あ……わりいわりい、連絡しなかったわ。

ごめんごめん。

あ、今日、ちよつと遅くなるかも。

うん、先に寝てて。

え？ あ……家賃の振込？

今日いれられなかったわ。ごめん。

あー、明日やるやる。いや、忘れてただけなんだよ。

大丈夫、心配いらないから。うん、うん、そんじや。

はーい、はーい、はーい。(切る) はあ……。

(タナカに) サエコ？

元気だよ。

うん、一緒に暮らしてる。おれ、今自分の家がないからさ。

あー、クビになったなんてサエコに言えないなあ。

言えねえよ。言えるわけねえだろ。

仕事なあ。

どっかにいい仕事ないかなあ。

楽して稼げるようなあ。

贅沢言わないからさあ、ほんとに、寝てて儲かるようなあ。

ねえかー。そんなのねえわなあ。

先輩？ ああ、ゼミの、あのチャライ人ね。

弟

え？ そんな仕事してんの？
やばいんじゃないの？ それ。
えー。それって儲かるのかな。
いいなあ。やってみようかな。
うそうそ。冗談だよ、やらないよそんなの。
心配すんなよ、大丈夫だって。
んー、でもなあ……。

帰りの電車で。一人になって。

家賃の振込かあ。光熱費もまだだしなあ。
つつか生活費すらサエコに渡せてねえし……。
まさかこのタイミングでクビになるとはなあ……。
しっかし、クソ、ナカオカの野郎。
あいつ最悪だよ。
なんであいつが仕事続けておれがやめなくちゃなんないんだよ。
もしかして、あいつくらい極悪じゃないと
生きていけないってことなのか……。
もう、覚悟を決めなきやダメか……。

駅前で。
座り込んでいる女の子に。

弟

ねえ、ずっとそこで座ってんね。

さつき通った時もいたから、2時間くらいいるでしょここに。

寒くない？ 大丈夫？ もう終電終わっちゃうよ。

ダメだよここで朝までなんて。悪い奴らがうろうろしてるから。

ネカフェだったらその商店街にあるし。

君みたいな若い女の子がここにいたら変なことされちゃうからさ。

お金がないのか……。

いいよ、ネカフェ代一泊くらいなら出してあげるよ。

だって、女の子をここに置いて帰れないだろ。

いいよ気にしないで。行こ。

(歩きながら) お腹空いてない？

ご飯食べる？ ガストだったらご馳走してあげれるかな。

ガストに到着。

弟

(入口のドアを開けて) どうぞ。

(店員に) あ、二人です。

(席に座って) 好きなもの食べなよ。

(店員に) ○○と、あとドリンクバーふたつ。

…何か事情があるんでしょ。

言いたくなかったら答えなくてもいいんだけどさ。

だって、今夜はいいけど、明日また駅前で座ってたらさ。

心配してんだよ。

明日はおうちに帰りなよ。

…よっぽど事情があるんだね。

どうすんの？ これから。

あのまま駅前にいたら警察に補導されるかも。

そしたら無理矢理家に連れ帰されちゃうよ。

どっか行くあてあるの？

あのさ、もし、君が困ってるんだったらさ、

住み込みで働けるお仕事があるんだけど。

いやいや、風俗じゃないよ。心配しないで。

観光案内。

見たことない？ 駅前で女の子が声かけてるの。知らない？

いろんな街からくる観光客と一緒に散歩して、1時間で二千円。

あー、大丈夫、お家には連絡しないから。

そういうことはしない主義。

やってみる？ いいよ、明日から。寮もすぐ入れるし。

そんでさあ、その携帯。新しくした方がいいよ。

えー？ だってスマホ新しい方がよくない？

それにさあ、お家から電話きたら面倒じゃん。

いいのいいの、携帯代はお店が面倒見ることになってんだから。

一緒に手配しとくよ。最新のやつ。

(電話する) あー、すみません、マツダです。

あの、一人みつかったんで。

(女の子に) 名前は？

(電話に) ユキちゃんです。はい、明日連れて行きますんで。

(女の子に) 歳いくつ？

(電話に) 15つすね。あ、はい。

え？ 今からつか？

わかりましたー。今から行きます。

(電話を切って) ごめーん、おれ、仕事入っちゃった。

ここ、支払いしとくからゆつくりご飯食べて行きなよ。

(メモを書いて) これ、おれの連絡先だから。ワン切りしてくれる？

はい、きました。これね、ユキちゃん。

そんじゃこれは、ネカフェ代の五千円。

お釣りはあげるよ。なにかおいしいものでも食べなよ。

そんじゃ、また明日ね。

もう駅前で座り込んじゃダメだからね。

弟

忙しい忙しいといいながら移動して
しるく女学園の事務所。

かえでちゃん、この仕事初めてどのくらいになる？

えー、もう4ヶ月？ はやいねー。

どう？ 仕事。稼いでる？

ぼちぼちか。だよねー。

どう？ 正直、観光案内だけだと思ったほどじゃない？

1時間で二千円だもんね。頑張っても4千円か6千円か。

実はさ、もっと稼げる仕事あるんだけど、やってみる？

やばくないやばくない。おれたちちゃんといてるから大丈夫。

でもさ、ぶっちゃけ客とカラオケとか行った時、

おっぱい見せるとか言われてんだよ。

だよね。

それってちゃんとお金もらえてる？

だよねー。

だったらだったら、

どうせおっぱい見られたり触られたりするんだったら、

ちゃんとお金もらえた方がよくない？

でしょー？

実際さあ、風俗店の方が衛生管理ちゃんとしてるし、

お客さんも俺たちが把握できるから安全なのよ。

しかも、お金は倍以上もらせるし。

デメリットはほぼございません。

どう？ やってみない？

やってみるか。そうこなくちや。

じゃ、今日早速お客さん入ってるけど、行ってみるか。

え？ あ…。今日はダメな日。

いいよいいよ、おれ、先方に断っておくからさ。

パンツはいたまま口でやっちゃいなよ。がつり稼ごうぜ。

(歩きながら) かえでちゃんさー、

これまでお散歩やってて、口で抜いてくれてって言われたことある？

あ、そう。

そんでいくもらってた？

えー。もったいない。もっともらっていいって。

かえでちゃんならもっと稼げるから。

(車に乗り込む) 今日のお客さんはね、常連さんなんだよね。

太客だよ太客。かえでちゃん、がんばってよ。

ほらついた。

かえでちゃん、終わるころに電話するねー。

車からおりてぐーっと伸びをする

弟

(人がいるのに気がついて)あ。
いつもありがとうございます。

今日は、あの、ご希望の

そうです。かえでちゃん。連れてきましたんで。

はい、気に入ってもらえると思います。はい。

そんで、あの、一点、

お客さんに伝えていただきたいことがあるんですけど。

その、かえでちゃんなんですけど、今日どうもあの日みたいで。

その……。

あー、そうっすか、気にしないんすねそういうの。

へー。

あの、変なこと聞きますけど。

秘書の方なんですか？

あー、やっぱり。きつとそうだと思ってました。

だって、いっつもいらっしやるじゃないですか。

普通デリヘル呼ぶのに、お付きの人が待つてるとかないですからね。

あの、お客さんって、かなり偉い方なんですか？

あ、すいません。調子に乗りました。余計なことは聞きません。

ぼくですか？ 22です。

大学やめちゃって……。同級生は就活ですかね。

あ、まあ、いろいろあって。

今はスカウトとドライバーを。はい。

でも、前は普通の仕事してたんですよ。

あ、はい、新電力の勧誘を。

いやーなかなか厳しかったですね。

今はどの仕事もしんどいですよ。

あ、でも、月に20万くらいは稼いでましたね。

もうちよつとかな？

いやー、もつと凄い人は全然稼いでましたからね。

おれなんてまだまだです。はい。

え？ 捜査？ うちに？

なんすかそれ、まずいじゃないですか。

でも、おれは関係ないですよ。だって……

え。関係ある？

おれ捕まっちゃうんすか。

なんすか、それ、やばいじゃないすか……。

いやー、そうは言いますけどね、やめられないですよ仕事は。

何か他の仕事があれば別ですけど。

あるんすか。

紹介してくれるんですか。

でもなんで？

あー、いいっすいいっす、もうおれ、どんな仕事でもやるんで。事情はどうでもいいんすよ、結局、いくらもらえるかなんです。

いくらもらえるんすか、その仕事。

え！ そんなに！ やります！

サエコの家

弟

（走って帰ってくる）サエコサエコ！サエコサエコサエコサエコ！
決まった！ まともな仕事が！

あ、いや…新電力？ ああ、新電力ね。新電力の仕事は、その。
いいの！

いろいろあったんだけど、まともな仕事が決まったの！

あー！ よかったー。いつまであれやんのかと思ってたー。

あー、安心したらなんだかお腹がすいてきちゃったなあ。

サエコのご飯が食べたいなー。

食べたーい。

何でもいいよ。だって、もうスシローしまってるしさ。

閉まってるよ。もう1時だよ。

何でもいいんだよ。サエコのご飯だったら。

何ができるの？ え？ 何でもできるの？ 夜中なのに？

えー。じゃあ、言うだけね、言うだけ。

ハンバーグ、とか？

嘘。マジで。できるの？ やる気になっちゃった？

うわー…今から肉握ねるんだ…。

いいよいいよ、待つ待つ。待ち遠しいなー！

サエコのご飯が待ち遠しい！
そして新しい仕事も待ち遠しい！

市民センターの会議室

館内アナウンスのチャイムが鳴っている。

弟

というわけでございまして、本日はジャーナリズム女子研究会
定例ミーティングにお集まりいただきましてありがとうございます。
今日初めてって方は手を上げてもらえますか？

ああ、結構いますね。

ありがとうございます。

えー、ここにお集まりの皆さんは

将来ジャーナリストになりたいという志の高い皆さんです。

あー、別にまだそんなにシリアスに考えなくても

特に興味がない人も全然ウェルカムなんで

ぼやっと、雑誌記者になりたいとか、

報道に興味があるとか、アナウンサーがいいとか

まー、そういったみなさんがここで仲良くなつて

就活のテクニクとか、コネクションとか、

身につけていただけたらなーと思います。

今日は、30分くらいですね、お茶会というか、

みんなで情報交換をしまして

えっと、初めての方には自己紹介なんかしてもらいつつ
スイーツをいただきますたりしようかなあと思っています。

今日はそのあと、もと新聞記者で今はフリージャーナリストの
シンガイさんにお越しいただいていますので

座談会形式でいろんなことをお話ししていただきたいと思います。
さて。ちよつとここから真面目な話ね。

みなさんの中に、東北からきてるという方。

それじゃ熊本から来てるという方。

ありがとう。みんな、おうちは地震大丈夫だった？

……。うん、そうですね。

日本は島国ですから、地震の問題からは逃れられません。

これからも南海トラフ地震や首都直下型地震など

大きな地震が起きると想定されていますね。

そういった緊急事態になった場合、

政府がいかに素早く対応するかが大事になってきます。

その、緊急事態というのは、なにも国内だけの話じゃなくて、

シリア情勢とか、聞いたことある？

その他アジア諸国の緊張感も高まって来ています。

数年後には東京オリンピックを控えていますし

そうなる日本に世界中から外国人がやってきます。

もちろんテロの標的にもなります。

みんなは女の子だから、最前線で戦うということはありませんが

だからこそ、ジャーナリストとして
よりよい社会のために働いてもらいたい。

女性の視点から、日本が安全で安心な国であると、
誇りを持って国民に伝える

立派なジャーナリストになつていただきたいと思います。

今日お話しくださるシンガイさんは憲法についても詳しいので
今の憲法のどこが間違つていて、

どこを改正すべきかをお話しいただく予定です。

えー、それでは。お待たせしました。

お茶会を始めましょう。いえーい。

じゃ、あちらにスイーツ、準備してるんで

みんな好きなのを選んでくださーい。

(一人の女の子に声をかける) あ、君、タカヤマさん？

タナカから話聞いてるよ。

なにになに？ あいつとゼミが一緒なの？

…あー、そうなんだ。

タナカとは俺も長い付き合いできあ。

あいついいやつだね。

おれ、ほんと困つてた時に助けてもらったことがあつてさ。

だからおれ、タカヤマさんの力になりたくて。

いや、そんな大したことはできないから、気にしないで。

恩返しだよ、恩返し。

弟

だから、礼を言うならタナカに言っただけ。うん。
それで聞いたよ、就活出遅れちゃったんだって？
大丈夫？ スタートダッシュが肝心でしょ？
うん、うん、そっか。バイトが大変なんだ。わかるわかる。
確かタカヤマさんって報道関係希望してるんだよね？
実はさ、今日の夕方、そっち方面に顔が利く人と約束してるんだけど
一緒に来ない？ 紹介してあげるよ。
遠慮すんなって。こういう時にガツガツ行けないと損するよ。
予定どう？ 空いてる？ 空いてるんだったら。
すごい美味しいものご馳走してもらえるよ。
じゃ、ミーティング終わりに駐車場で待ち合わせね。

駐車場

あー、こっちこっち。
(車に乗り込む) じゃ、しゅっぱーつ。
タカヤマさんって一人暮らし？
あー、そう。
じゃ、自炊とかしてるの？
ダメだよコンビニばっかじゃ。
でもそうか、時間ないよな。
バイトと課題で。

弟

(取り出して) フリスク食べる? どうぞ。

今日会う人ってね、そんな簡単に会えるような人じゃないから
うまく話ができたらいいとこ紹介してもらえるかもよ。

ま、大丈夫、リラックスして。

普段のタカヤマさんのままでいいから。

そうそう。

……。

しばらく運転して目的地に到着。

(車から降りて) シロモトさーん。

助手席に回ってドアを開ける。

(シートの高山さんを指差し) 寝ています。ぐっすり。
薬効いていますよ。

シロモトさんも手伝ってくださいよ。

俺一人じゃこの子抱えるの無理ですから。

よいしょ。(タカヤマさんを担ぐ)

……しっかし、この仕事やばいっすね。

偉い人ってこんなことやってんすか。ビビりますねー。

これってバレないんすか?

バレないんすか。

なんで？

あ、すみません。余計なことは聞きません。

しっかしすげーなー。権力って。

敵に回すと怖いっすね。

よいしょ（とタカヤマさんを下ろす）

この子、やられちゃうんすか？

（手を合わせて）ご苦労さんです。

……え？

……はあ、はあ……え！

それ、冗談ですよ。

ちよつと待ってくださいよ。

え、うそでしょ。

じゃ、もう死んじやってるんですか、この子。

ちよ、ちよ、ちよ、ちよつと。

いや、あ、でも、うそだ。だって温かったもん、ここまで運ぶ時。

え？ 息？ いや、覚えてないっす……。

え？ 嫌ですよ、もう近づけないっす、気味悪くて。

確かに、ここまでは運びましたけど、

それは生きてると思ってたからであって。

死体だったら触りたくないですよいくらなんでも。

え？ え？

ちよつとー！ 勘弁してくださいよー！

（タカヤマさんを触ってみて）生きてんじゃないすかー！

もうおれ、マジびびったー、殺人犯になったかと思っただー。

いや、いくら先生でも死体相手はないだろとは思っただーですけどねー

いや、でも先生ならありえなくもないかなって。

なんすか、もう、超笑ってんじゃないすかー

そんな、真似しないでくださいよ。趣味わる。

え？ おれっすか？

この子と？ ここで？ いやいやいや。

勘弁してくださいよ。

もう勃たないですよ、もはや。

いや、嬉しくないっすよ、この流れでやらせてもらっても。

それに、おれこの子趣味じゃないっすわ。

いやいや、贅沢なんて言っただけじゃないっすよ。

だって、誰でも勃たってわけじゃないでしょ。

え。シロモトさん大体いける？

大体ってどのくらいっすか。

え？ マジで。うそでしょ。それババアじゃないすか。

いやおれ絶対無理だわ親の年齢より上とか。

おれ、そんな強くないんすよ。性欲。

いや、ホントですよ。

まじ尊敬しますもん、先生の凄まじさも。

ほんとに。女の子たちメロメロでしたよー。
なんかむちやくちやするらしいじゃないですか。

え？ よくわかんないけど、なんかもう、むちやくちやらしいですよ。
いや、だから、おれはもう、そんないい人ですよ。

いやー、もう、セックスには興味ないっすね。
ほんとですって。

おれ、彼女いるんすけど、最初の数ヶ月でしたね、楽しかったのは。
だっておれみたいな素人って、毎回同じじゃないすか。流れが。
飽きちゃって。

それに、おっぱい吸ったりする時、なんか冷めるんすよね。
おれなにやってんのかな？って。

え？ プロですか？

いやー、プロにはお願いしたことないっすね。

こんな仕事してて、面くないですけど。

えー。マジっすか。そんなに？

うそー、そんなにいいんすか？

(シロモトさんにカードを渡される) ここ？

いやー、やっぱおれいいっすわ。

え？ シロモトさんおごってくれるんすか？

そっかー……。じゃ、ちよっとお呼ばれしちやおうかな。

弟

あの……。シロモトさんの紹介で。

あ、はい、はい。そうです。

あ、いや、SMクラブは初めてです。はい。

(椅子に座るように促される) あ、どうも。

(錠剤を手渡される) え？ フリスクすか？

えー。だってこれ飲むと眠くなるんでしょ？

あ、違うやつすか。

違うやつ？

えー。こわいなー。

あ、はい、飲みます飲みます。

(錠剤を飲む)

え？ (壁際に立つように促される) あ、はい。

(目隠しを手渡され) あ、はい (素直につける) なにも見えないっすね。

あ？ え？ え？ あ、あー。

あ、はい。ええ。恥ずかしいです。

(手を取られて歩かされる) ちよつと、ちよつと、

どこ行くんすか。どこ行くんすか。

(ガチャリとドアの開く音) えー。外？

ちよつと、まっ裸、まっ裸、外はちよつと。

(壁に手をつかされ) えー。どこすか。どこにいるんすか。

あ、あ、あー。あー！ ぎゅーっと握らないでー。

あ、はい、気持ちいいっす。
え、え、え、えー。……マジか。

(手を取られて歩かされる) あ、あ、あ、なんかふわふわしてきた。
あ、薬か。ふわふわしてます。(ガチャリとドアの音)

お、お、お。おー。おわー！

あ、はい、豚です。豚です。

わ、わ、わ、わー、気持ちいいです、はい、気持ちいいです。

あ、あ、あ、あはー。

(目隠しをとって) いやー、すごかった！
あざっす！ 勉強になりました！

帰りしな

弟

(目がイってる) あー、いやー、おれ、DMだったんだー。
知らなかったー、世の中には知らないことがたくさんあるなー。
いやー、人生って素晴らしい！

サエコの家

弟

ただいま！
サエコ！
起きろ！

サエコ！

あのな！

おれ！

…結婚しよう！（目がイッてる）

躍動感だよ躍動感。

今のおれは躍動感に満ち溢れてるんだ！

だから、な。結婚しよ。

おれ、サエコを幸せにするよ。

それで、おれたちの子供を育てよう。

な。

そんなに嬉しい？

照れるじゃん。ニヤニヤすんなよー。

ちよ、じゃれてくるなよ。（態度急変）

セックスはしないから。そういうんじゃないから。

調子乗んなよ。まったく。

寝るぞ。

喫茶店で

弟

(慌てて) いやー、すいませんお待たせしちゃって。

いやいや、今日、行って来たんすよ、ラムさん。

通ってないっすよー高いすもん、あそこ。

シロモトさん、またおごってくださいよ。

えー、いいじゃないですか。

今日なんか、家から女装して来いって言うんすよ。

それはさすがに、ねえ。

そうですなー、ま、はまってるんでしようねえ。

金がかかってしょうがないっすね。

もう最近はラムさんのために働いてるようなもんすから。

彼女？ もちろん内緒ですよ。

言うわけじゃないっすか。何言ってるんすか。

そもそも、そういうアレじゃないんですよ、彼女は。

おれ、彼女には綺麗なままいて欲しいんす。

結婚すか？

彼女が卒業してちよっと落ち着いてからですね。

なに言ってるんすか。悪いのはシロモトさんも同じじゃないですか。
え？ 紹介？ しませんよ。

なんで紹介なんかするんすか。危ない危ない。

え、だってそうでしょ。

こんな仕事してるのが彼女にバレたらどうするんすか。

彼女、普通なんすから。もう、ごく普通。

ま、そうですけど、表向きはね。

だからって紹介していいって話にはなんないっすよ。

それに政治関係の仕事とか言ったら

余計にやばい空気にならないすか？

お祝い？

いいっすよそんなの。気を使わないでくださいよ。

先生が？

ダメっすよ。先生には近づいて欲しくないんす。

どうすんすか、彼女と寝たいって言い出したら。

先生の性欲は凄まじいすからねー。

え？ (写真を数枚手渡される)

……なんでシロモトさん、サエコの写真持ってんすか。

……ちよ……ダメですよ。サエコは絶対にダメです。

……先生がつすか。……そんなこと言ってるんすか。

いや、シロモトさん、サエコだけは勘弁してもらえないっすかね。

この子、ほんと、普通の子なんです。

一生懸命ご飯作って、俺の帰りを待ってるような子なんです。その……。いや……。いや……。

確かにこれまでやって来た子たちも普通でしたけど。

おれ、サエコがあんな風になるのは耐えらんないっす。

……。

それって、脅迫してんすか。

そんな……。

それってでも、おれは指示されてやってただけじゃないすか。

全部俺のせいになるのはあんまりじゃないですか？

えー。

ちよつと、ちよつと、一旦持ち帰って考えさせてもらっていいっすか。

……今から？

ちよつと待ってください。急すぎんだろー

うー。

ここで電話しないとダメですか？

うー。(電話を手取る)

もっという子を紹介しますよ。ガチで探しますから。

あー。(がつくりうなだれる)

だったら、寝てる間にやっちゃってください。

彼女、マジで普通の子なんです。お願いします。

(電話かける) あー、サエコ？

うん。あの……。

今日さ、実は……。

サエコに豪華なディナーをご馳走しようと思ってさ。
奮発しちゃったんだよね。

そう。ホテルのスイートを抑えてるんだ。

ハイアットホテルの30階、ゴールデンスイートって部屋。
すっげえ部屋だよ。

うん。

今日の夜8時にそこに来てくれない？

ああ、うん。おれそこで待ってるから。

じゃ。(電話切る)

これでいいっすか。

おれ、もう帰ります。

弟、とぼとぼと歩いている。

夜。

家に帰り着く。

黙ってうなだれている。

テレビをつける。

見るともなしにテレビを眺めている。

立ち上がって冷蔵庫を開ける。

弟

(取り出して) 冷蔵庫の中には、
昨日の夕飯で食べたポテトサラダの残りが入っていました。

弟、手に取ったポテトサラダをじっと見ている。

一口指でつまんで食べる。

冷蔵庫の中に戻す。

弟

……ああ。

弟、部屋の中をうろろと歩く。

電話を手にとってみるが、かけることができない。

錠剤を取り出して何錠か飲む。

弟

うーん。

白い粉を鼻から吸い込む。

弟

ああ、あああ。(葉が効いている)

ああああ、ああああああ(電話をかけている)

(電話に) ああ。レイプ事件です。レイプ。

あ、俺の彼女がレイプされかけてて。

いや、まだなんすけど。これからの話で。今夜。

いや、おれ、名乗るほどのものじゃないっす。
ええ、ええ、そうなんすけど。

でも、おれが誰かとか関係なくないっすか？

誰が通報しようと、駆けつけるのが警察官の仕事なんじゃないっすか？
ハイアットホテルの30階にあるスイートで
いや、その……もういいっすわ！（切る）

サエコー。待つてろー。俺が助けてやるからなー。

弟、サエコの服を着る。

そして口紅を引く。

香水を何度か振りかける。

ようし！ サエコ！ 待つてろよー！

あ、どうしよう、何か武器を……包丁は目立つなあ……

（舞台上、もしくは客席にある手頃な鈍器を手に取って）これだな。
よし！

サエコー。（そのままふらふらと出て行く）

サエコーサエコー。

待つてろーサエコー。

ホテルのロビー。

弟

あ
シロモトさん。

(自分の服装を) これっすか？

実は。今日。2回目。ラムさん。

女装、しちやいました。

やばいっすね、これ。

え？ サエコ？

もう来てるんじゃないすか？

ああ、いいんすいいんす、もう吹っ切れたんで。

好きなようにやっちゃってくださいよ。はい。

じゃ、これにてドロンさせていただきます。へへ。

さいなら。

……ああ、やばいやばい。

(エレベーターに乗って) 30階。

ああ、サエコー。もうすぐ助けるからなー。

エレベーターから降り、スイートルーム前へ。

ドアをノックしてしばらく待つ

がちやつとドアが開く

弟

(部屋の中へ踊り込んで) サエコ！

サエコ、どこだ！ サエコ！

……あ？

……部屋を間違えちゃいました。

あ、その。んじや、失礼します。

え？ 通報？

あ、それ俺かもしんないつす。

はい、はい……女性から？

女性？ もしかして、サエコ……。

尿検査？

おれがつすか？

うそうそうそ、サエコがまさか、そんな通報するわけないつしよ。

サエコは知らねえから、なにも。

いや、そんなばかな。ちよつと状況が掴めない。

待って、待って、待って！

サエコが……？

なんでサエコがちくつたんだよ……。

だから待ってってば！

え？ ここで？

いくらなんでもここでおしっこは出ないつすよ。

いや、捜査には協力しますけど。

出ない出ないおしっこ。見られてたら。

えー。(紙コップを渡される) どうしてもここでやるんすか。

あー(おしっこしながら) サエコー、

弟

おれ、人に見られておしっこしてるよー。
(おしっこが出終わって) ……。終わった。

といった経緯で、ぼくはいまここにいます。

…。(唇) ヘルペスがでちゃいました。

ここには誰も来ないんで

まず、誰かと喋るってことがありませんから

一人でいろんなことを考えるんです。

いいことばっかじゃないですよ。

ムカついてもあります。

まあ、だいたいはサエコのことですけどね。

…でも、ここまでひとりぼっちだと

俺以外の全員が死んじゃったみたいな気持ちになりますよね。

もしくは、俺だけが死んじゃってるとか。

変な感じですよ。もう慣れたけど。

とにかくここはスマホ禁止なんで

外と連絡取り合うのは手紙しかなくてね。

必死で書きましたよ。手紙。サエコに。

返事は来ないっす。

つか、書けないんだと思います。事情があつて。

それか、俺の手紙がサエコに届いてないのか……。
そもそも知ってるはずねえからなあ。サエコが。
だから、どう考えても話の辻褄が合わないんだよなあ。
一体、誰のせいであんなになったんだ？

まあ、とにかく、運が悪かったつすね。

運、なのかな……。

思えばいつも同じところでつまずくんです。
今回も。

サエコを助けようとしたばっかりに。

……。

ほんと、人助けなんかするもんじゃないつすよ。

中途半端だからこんなことになるんだ。

やりきらなくちゃ！ 何事も

もう、サエコ以外はみんな死んじゃったらしいのにね。

それか、俺が死んじゃうか。どっちでもおんなじか。

まあ、行きていくしかないけどね。

これもゼーんぶ独り言ですよ。

ぶつぶつぶつぶつ呟いているだけ。

あーあ。

ご静聴ありがとうございました。

おわり